



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：イスラエルの無人機を撃墜したと主張

8月24日、イランの革命防衛隊は、ナタンズの核施設に侵入しようとしていたイスラエルの無人機を地対空ミサイルで撃墜したと発表した。25日、イラン国営テレビは撃墜した機体の映像を公開し、同機はイスラエル空軍によって運用されている無人偵察機「ヘルメス 450」であるとした。

アリー・ハージーザーデ革命防衛隊空軍司令官は、「同機の航続距離は800kmであり、給油により1600kmまで航続距離を伸ばすことができる」（ママ）とした。また、「同機の航続距離は、同機が占領地（イスラエル）からではなく、地域のある国から発進したことを示している」と述べ、「我々は端緒をつかんでおり、それらを調査中である」と述べた。

評価

イラン側から無人機撃墜の発表がなされたものの、イスラエル側は肯定も否定もしておらず、真偽の程は未だ不明である。革命防衛隊による防空能力の高さを示すための宣伝の可能性があるものの、イランは過去にも米無人機を拿捕した経験があり、一概には否定できない。また、ハージーザーデ司令官の発言が何を意図しているのかも（暗にイスラエルと協力している湾岸諸国を非難しているのだとしても）、不明である。

他方、イランがイスラエルの無人機撃墜を発表する政治的な意図としては、イスラエルによるガザ攻撃に抗議を示すため、核交渉に反対しているイスラエルを孤立させるためなど、複数の可能性が考えられる。もっとも、仮に無人機撃墜が事実であったとしても、それが政府の意思に沿ったものであるのか、あるいは革命防衛隊、更に言えば現場の独断によるものなのかは、引き続き観察を要する問題である。

（村上研究員）

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799